遠案集

乾

元禄七戌年夏

夕月夜ものこころ友ぞ哀
和歌のうら　霞の下荊　為有
ゆふ〳〵と沈む鏡の面なく　素牛
ゆきゆくハ名ゆ　人ぞ　風仮
ものこの秋て　沼ふ元の月　くるる
稗よ穂夢に座の坊ふ　牛

春雨も小傷りする孫八をたすけて人ゝ
ゆるす　義成
春雨の障子に移やすのゝ雫おけて
旅の独寝ゝ　屏風　仍　牛
掛ひらいてハ　名仁ゝ　義
その男に　伊勢――ゝ　牛
めさゝと川ゝ　ゝ　仍
米の味ゝ　山里のいと　義
月うけゝ　ゝ　牛
夢の夜ゝ　仍　仍

笠の長ゝ　小ゝ　義
出ゝ　芋掘の穴　牛
かけゝ　田屋　役者の義の　仍
いせのゝ　料理屋　義
杉の本を　ゝ　牛
風もむすめ　ゝ　仍
ゝと　ゝ　義
豆腐――ゝ　ゝ　牛
夜ゝ　ゝ　去来
会ひひろゝ　ゝ　之

[illegible]て汐漬うきこむ谷の水　仮
帥さの仮ふしなる　如智　来
たかくとそくくに入くいきよ　牛
杉のくちの[illegible]て　仮
ち弥の屋まる　六人　来
んきたるうの　茶坂　牛
号外しまの軍　ねうり　仮
撃ひたるひ　ねぬ　来
新渡の[illegible]の[illegible]柿　来て　牛
あうう　柳　山き　仮

松風新酒をすまし取をる　支考
月もうるむく　猪飼
町乃門迄ふ　[illegible]
きてハゆれ雅を引　吉芝
二十日ハ[illegible]　[illegible]
この山うて[illegible]侍　卓袋
[illegible]れ[illegible]　[illegible]
床うあるをうく利　考

乞ひす僧 行の待をまふかく
嵯峨の中を分て
仕合と 矢 拾の舟をのなる
あるかと 解乃あるかる
せりと 法るを 絶よつきまる
大工 毛根やの 帰るれを
用の有 河ハうけ 蔦と 繋
面のるロの 命るゆゆの
きハまを 毛出 ても 同
就とりまを ――て 貴 秋

然
芝
意
翠
発
然
考
芝
発
然
考

門りけ 人 ま
かるるみもの 絶の 初
嵯 れ 無 ま 速
功 を りて つ き 探 と
者と 猟の 河 あ 絶 ま
内 俊乃 ま れ る あ
名 切 門乃 ― 入 た
一 里の 舟 も 絶の ま る
山ハ ケ れ 宮 植の 色の 黄 て
ロ な れ て る 畠乃 鈴 寿

翠
紙
翠
意
考

如月の雨降て
籠のこるもの素のうち
傳家の蜜を弥あつ邊の雨
はるかにほと濡ハ一むも
小倉とは白い合のトの関
老婆の風ふ人死ったる
ふとさきなる日寺の粥くく
蓮ふ所之姫の言と切まる
粥と今ハすくるうとも紀
ひんのうちとつくうと飯

芝
袋
鉢
芝
袋
考
蓮
鉢
器
蓮

泥武をとうつくしく青色
うたれてくるる 朝の茶を
朝ゆの茶湯とうを尼の業
何ハ一ハ牛の艶ふく
柿もちふ柿の皮
月見ていはも 返仕せて
かゆゆふくまる 秋の風
濃の小部をるきり雨
懐ふ死とおくくけ妙
いうきの家ふ白髪麻をる

考
袋
鉢
芝
袋
考
器
袋
袋
考

書屋乃高くのうるの秋　敏
拭ふ　ほうらいの雲　哲

雅号を送る

忘れる虹　輝明　青雲　會覚
杉の　たちを　こり　之日月　青秋
磯　ほうらい　雲　かれらを　勢へく　不玉
沙　一　たへ　るの　高秋　青良

無人なる人　秋の雲　天世成
沼乃　たけ　れ　雲　泥之
月　一　む　雲　の　ほ　た　雲　の　孤　て　支考
ちい　さく　あ　を　と　く　あ　む　激力
を　言　雅　雅　を　入　く　前　雅　之乃
酒　て　い　の　る　雅　癖　東庸
作　つ　め　る　の　世　雲　の　ハ　酒堂
海　乃　雲　ひ　よ　雲　あ　る　畦止

[illegible]の如きの
[illegible]の[illegible]二月
[illegible]の名[illegible]ハ[illegible]を
[illegible]に[illegible]風
[illegible]と山国の橋ハ[illegible]
地[illegible]
仕事[illegible]ハ[illegible]の月
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

牧[illegible]
[illegible]柳
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]と朝乃[illegible]
何[illegible]
小[illegible]ハ[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

あるかなる秋に紅をそめてら　洒堂
袖　ふくさらと　秋乃長代　舎羅
垣　知ふちらと　盥の花いつく　何中
書結のうちは小屋て火をたく　意
ゆうぬかきをやる藤の花のほ　墨
ほ　ふくのむ　子和のうち初　竹
それくと月のむうる杉の長　川
和法　もりる　冊子の秋　考
ちらやう　源うう　多者ゝこ　然
後者れぬくは　そてうるる　堂

ちきえいちにちをなにの泉　意
むうちを　叶の一宵たりむ　墨
色ひ泉を横ふる孫ふれ　牛
——ちよ　ちきれ　夏の唐　楼
あたくと色ちつきを　川
言のうの　の小ちる風　車
笑ちにちをけ伊ちれ　墨
結義ちにあの　ちむ也　考
上下の橋の和ちる川の言　然
橋田の木ちを時のさつく　中
意

小まつかあるをうらやみてよめる　左兵衛督

信の　仕とのくらゐ　常棟

月うしもたむく神もの和の名　作者

枝　一年をみちの紅葉　中

野をうしのうしなる神のあるべく　義川

老のちくにむすめ　秀

餅ちまち猪のあるべく紅葉　星

——ねそのの積てうき　雪

四の中の——めに流るる金　秋

柳のたち——本みなとのひ行

久月や六日も雲夜ふけ　左兵衛

雲をのをたれ　桐壺　一条

霧霧小仮たくらもとて　前良

雲乃をもとせる　職時

鳥なくむふ山をもとせる　地作

ふるの本ゐ　隠く住　布義

夕されば庭吹きたちて　石の蔭　右重
盥とるまで　秋萩の　菊
ひとりけぬ　色をもつとも　栗
きめくれば　秋は来ぬと　良
教へくれば　雁の鳴つよて　義
鏡とりかけ　秋はしぬと　慈
見るに　月の色　栗
摩りて　秋の　雪
拭ひすれば　ひらの　鳴
たらす　二人の　栗

花ちりて　実をはたらむ　実
蝉の鳴　をしむ　蝉の鳴　雪
雲間は　紫　月の　慈
春を　いろ　少人の　良

少しわすれ　夏の　桃の　絵と　書む　泥堂
結ぶの　七夕　鏡　比毛　本　素堂
宵の月　よく　わる　雲　富て　大伴

春風や麦の中より小の字の　木導
ゆきつゝいはむふれて糸口　ぐせ成

如行の四芽を続ぎて叶
霜寒き琉象の牧屋を点せト　如行
古人やすれの糸うゝ　ぐせ成

秋乃曇りしゝのうるやう雨　木因
萩よりうらふの　ぐせ成

異今宵師小弱華てとゝけば　右雪
いろ言てゝ　賞良
ゆゝ踊ふいゝく布搗く　ぐせ成
此方十ゝ引

移うゝく小枝ふ糸の石を所　更也
雨のあゝ　良
糞を引　嵐
一ゝ　雪

金山や俗子に物を捨つる義
舟乃むしろを捨つる居　右也
うゝ事は此百年に為の為にて
人いうしきと　良
松柏高くあるの為に
子を射ぬ　雪
後の者や枝を切る　猶乃庵
徒らの月　蕉
梶皮むく花の跡をとゝ　右
しられて露のふる中紅葉　也
雪

塗潢の孫村の乃ゝ雲路
しられなる法師
ゝむきし地蔵の孫小ゝ
鐘磨なる　良
俳諧を尋てくれ乃　雪
月末をとゝ　宗小入
ゝく　蕉
　　良

義仲寺にて
夏草とあつ面塗てゝ五三日　知足
笠うてくやれ高丸の笠　乙州

賀 新宅

結ぶや花よろこぶ宵戸の聚　文哉

蒸すこゝろ　也きくるうち　知足

扶ゝ迄のわゝ橋雪こめく　安伝

風名たゝて沙月のあけはの　哉

杉垣のあなさよ　すゝ丈時の雪　芝

ゝ春ゝりてゝゝゝゝゝて　伝

雪ふる枝小給ゝてゝる春ゝ乱れ　雪芝

陰春なゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ新　文哉

夕月乃ゝゝる猛ゝ実ゝ咲く　古芳

海ゝゝいゝゝゝ咲る新頭　風麦

月をゝゝゝ二人つれ立ゝ　玄虎

ゝゝゝりけゝ金ゝの明けの　若麻

煙蕚を目利のらちらて行きて
ほうて蕚き　門乃鶯を　芝
大石に積き　枝のちむる　支
蕚よ支ほ　てこん　後西　芳
山伏よつひ河て　あて　れ鶯　藤
一星　打ても　高ちる　旅　鬼
無きの　布袋の　鬼に　月行く　芝
石のやいに　おとす　蕚
秋風の　面ほ　ろと　門の上　芳
ちの舟を　とあるなり　支

鬼法師を　ぶれの　咲　秋に　蕚
てもする　なの　月　藤
水に日は　西なる　切目　梅　虎
われよ　ぬる　雨の　――　芝
乃れぬ　やう　ハ　われ　支
栄　たく　ほ　桜　芳
を作の　枝の　節　む　老のわさ　虎
――ぬ　山　法　を　に　ぬ　せて
老ぬ　ぬ　を　み　る　行　花
すきの　ぬ　に　す　ぬ　く　花

もりけるれや月よ清き人とれ
路邊乃いくれをうる牛掠
ぶしきる 波よりけて 芳
白い 玉ぬを 乏く 孤て 蔵 嶽

麦 前くよき 源れ新や 名むら 文成
みを ぬりに 拭 さく ちり 逸人
屋の 窓 むし 犬の 北 ちく 巴仁

めつ〻や 蔵 ふく入る 義草 如風
清士乃 薪と 多 野 多 梅 文成
沖車 北 ふく 四る 雪 ふく て 歩信
秋 を たり ふ に 川 ぬ 月 重辰
矢 ト 北 野 ふ ふ ま 新 の 風 自矢
カ こ の 蔵 ち り と の 屋 知之

田植の日うたてめるれぬ夢よ
うくわりてまけぬ苗を色む食べ甚　菅良
焼てうゑ早苗　大世成
あさゆの新くゆわやめをうすれ　笛窮
夏川のうきの青草探りけて
あさゆの宿を尋ねれば
所のありも行れ何と知人作る
蕨手を赤なるひたちのつゑ　雪窮
市のうちうたる和布　菅良
日西小　大世成

一つうるに拾をめせ霜夜の後　松江
一羽ちうれ　大世成
枯る葉にいるく松のみけて　菅良
田中に代今ちのとれられ　依こ
月ほうくゆのうゑ　泥芹
秋の野のうる門のはしうこ　水蘇
霧に系孫をとけれ校の宮　風泉
雨うけ今せ菜の色孫　夕策

[illegible]て女あらし情なくて　谷翼
[illegible]の[illegible]の　孤蓬

一[illegible]に[illegible]むまの音　春白
大[illegible]の[illegible]に[illegible]を[illegible]く　天岳
松風ふきれば駒をみのりて　渓石
[illegible]八[illegible]の[illegible]の月　二秋
[illegible]つ三[illegible]の秋の[illegible]　其角
[illegible]の[illegible]ゆ[illegible]の[illegible]へ　下手

[illegible]る嫁の[illegible]て　嵐雪
俤　[illegible]　白
[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]む　蕉
[illegible]る言　石

雨[illegible]て栗[illegible]　桃雪
いつ[illegible]く[illegible]る　探
夕[illegible]吟[illegible]　[illegible]
秋[illegible]と[illegible]布[illegible]　[illegible]

雪久、南たうふく

蔵王やたうくの高の山雪　芭蕉

木の葉とのうく紅葉の雨　曾良

西川青立るふく

桑田小いつれ乃ふを草枕　芭蕉

萩の露をあけうけ月　桃雪

笠のうつを夕を藤のいつせくて　更也

ゆるをぬけし高野乃下　曾良

風流子

水の奥もむろ乃ふる　柳孔　芭蕉

ひるほうる　橋の世芝　風流

風ふる的のうれ矢ゴ鳥て　曾良

登信子

風の音も南にちり立川　芭蕉

小雨北野を後の夕たち　柳風

絶もなく秋ハ京ゴ切れて　木端

ちはやふる宮所みく

海ちさやかに入る宮所の川　長成

月をゆり寄る波の清のくまなき　俊成

玉野の花の盛り過ぬ　不知

梅ハ白雪なるむしろもきて　定連

梅とられ形変はるく市を行　基良

けにまがふ　宵のあかつき　仁清

ふ横雲のうつろふ色ぞ　扇風

松ハ形ふるしあれはうつる水ぞ　去来

多ありてふく浜ぬる　英曽　許六

動ふるに移る雪の下風　長成

ぬい　雪　識も　ぬ　ふ　の　ち　基良

吹られて紅ハ色のうつり　千那

梅ぞ　ありて　のぼるつ　汐　来

いつ　紅　千　物　を　書　の　ち　ぬ　六

あ　ま　ら　に　入　ち　何　ゆ　ぬ　苔

神路の花よ郭ひとりうつて
て　言ふれと　比ふも　なほ　　臣
那

折くやる戸ぶたの萩の葉　　雪芝
ちるはなる　所也　　文成

なれ笠の　たつ夏と海て
月やを　海の水　ひかの　下面　　文成
旅人ちれハ　ちるの　　法圓
ちるに　四文の　むしに　来て　　宗角

壬申累暮
公の中をいとまうて
ちるうる色

小松城　ちてうんとうの書　　其角
仮中をりに　仮乃　蓮の　　溪石
次すう城猪の　むしに　来みて　　文成
うゆるうるうるよ　なるしたつ　　雪紅
鶏鳴をもう　たる　ほく市の中　　益子
毎し　日也　公路の　ちの　　史邦

作法の為こしに月の影　去来
絶てしける　夕橘の　研風

うやうし浮世れの山出ん　之也
雪きくのこれ　浮れ大根　句空
人を乃天を乃ふくる春風　去来

胡蝶ゆしてゆ秋ゆ菜畑　之也
たゆはうりて　茅ゆ一もと　如行

柔根を喫して弱ら

丈夫と侠伝は

ものゝ大根しさ　之也
一ゝ月りり　本ゝの長　玄房
おゝ　おゝ　残を宇ゝて　春作
火ゝ　ゝ　ゝる　古丘の角　義
地の長のすき　月の影　房
好をゝくゝ　ゝるさゝの　作

いたるまと雅面牛をうゝ　羽笠
橋ぬしあるる　板そゝの私　前分
とくさうるまをよ　髪をあらせんして　市丸
橋うたるよをを　やつす　鈴鹿　杜国
たるうるよ　蛾のうん　月いれ　芭蕉
たる　橋を　ようたきよ　山　世話

本ゝしたをと　薬てゝむ一年　銀外
ゆる　ゆるのしゝ　たる　ゆ月　芭蕉

何にゝゝ　武蔵　世の月　新原　寸木
如　如　仰ゝ　こまゝの　夜　芭蕉
ゝたゝゝ　雅ゝる　魚の　色を　宮く　前分
色ゝ　ゝ　ゝの　夜ゝ　楽ゝ　趣人
橋ゝ　ゝゝる　山ゝ　ゝて　夜橋
蝶　移ゝ　鳥　　　　　　　秋芳

　　孫午の分

橋の本のゝよゝ　芭蕉
如　ゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　秋風

そ遠のちゝ[illegible]武中の
入江もとせをの唐土とゝ[illegible]
深川さすらん[illegible]のもゆらゝ
[illegible]のそゝけ[illegible]
神宮のはゝ[illegible]の布の白和て
[illegible]時月の[illegible]
牛[illegible]ハ[illegible]

風瀑
[illegible]
石江
[illegible]
虚仙

[illegible]衣のゆ[illegible]
[illegible]
酒[illegible]
板屋[illegible]
夕[illegible]
[illegible]

山[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]
乙孝
一有
杜牧
[illegible]
[illegible]

也中のうれ行秋をうく　苞

、

夕よ雪をとる　みやこ人
春をとりの色を惜す　苞

、

汐八千て物よ毎つく次ケの屠
日をとりかるる　影を春ひく　苞

、

乞食をとる　橘の木の中
智て光なるうれ自をうら　苞

、

月の行きを後に作り
八つよりなるの　新　月け　苞

、

年　実てら別　春る月見る　乞成
秋のわ　に色　春つ花　晴止
泉のある地八刈　花　咲く　牧代
いつもの色み　この心中後　西堂
ひるよりくに自を　春る　支考

板の枝をおろしたる　ふる
藤川よつけ金谷を引てゐる　青葉
ゆのとりたる音のつきよ　義

山寺
村の山茶よ　集てゐる
既ちう八女牛こく　坊をあけ　義

、
嶮よ　淡の業師もはひろけ
市已ゆて五月第もしろ　義

、

山川の末
大根もうりたるよう　義

地のしめる程
時の山中ゆせて　一日　義

柳せて　東ゆ　宿のよ　丁先　自準
秋とこゆる　机板のさ　板　之成
月之山と沙川のゆるみとめて　宗氏

[illegible]もあるやけ色　行六
[illegible]ける　小点の　係　長成
月もるる　青うるるをつれてきて　光泉
いろいろの名ものや　其の所　阿頂
[illegible]れて　誓のゆめハさめる　長成
かたりのものをうた御をうたひ　行通

[illegible]灰中史[illegible]ものをれを　就人
[illegible]を[illegible]意[illegible]　叔恕
[illegible]の[illegible]を[illegible]る[illegible]　長成
脊[illegible]　[illegible]に[illegible]こ[illegible]　人
[illegible]む[illegible]月を[illegible]　恕
[illegible]の　貴[illegible]を[illegible]せ[illegible]字　意
[illegible]を[illegible]　[illegible]
青[illegible]ほと袖も[illegible]　寄与
[illegible]の[illegible]母を[illegible]　長成

今宵のこゝろ小篠の露をわけきりく
ちるのをとにぞ聞まがふる　牧恕
ちるこゝ聞ひねもすの答意ふ　望水
おりしろや富士やかんなの面
ゆとたくく田舟の大綱　意伐
舟つなぐ客のこゝ役をきうれく　自然
ふ地わしてを探水紀行る、　牧恕
業のるをきてて
ちるくたくても哀のるこゝ
むしこまれの宿　意伐
　　紀行

ちこしてみせやの四徳寺　己公
谷あしこもむ不破のたみれ　意伐
蛍のこゝろこゝ草のもつこゝや　荷分
折てや掃むこゝの第木　蓮楷
七夕乃八日ものしたりて　意伐
桑園もなくて桑木の樹弘　露川
小ゝ乃ふ　ちこれこくこゝの出　意伐

[illegible]て[illegible]

高[illegible]

月[illegible]

かけ[illegible]

やと[illegible]

田[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

梅[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

古[illegible]

[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

再讃雜

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

ちく口立圃に逢ひたりける人也
ある時は此句をわすれあへりて
俳諧を改め古徳をしたふ

旅なれて名ぶをきのふ人もなれ　沾圃

実、ち鳥の鳴てもしぐり咲
篭の扇にむかしに戸をたたく　はせを

こた不二や五月晦の雲丸嶺　素堂

なほひろきも色なれる　露沾

鶯の子は竹あたりの雪まりて　はせを

百景や杉の木の間にはやて草　はせを

鶯を枝に見しよ山の家　浪化

猿しかりいたひと雛の隣くれく　去来

月しろや膝に手を置宵の宿　はせを

萩しらけるうちしとけ臥　正秀

ならひの袖

みせや花をある軒の細　惟然

うれしきをとむ夕はせを　はせを

葉たるはたの延のほやゆ夕涼　曲翠
ほそ川のあちさゐのふ　文成

寄れ月をたれはたれ　杉風
ロ乃ちぶさくの　ゆきさそそ　孤屋
下ちふを一舟涼ようめく　文成

鮎出て扇引さく別れ　文成
ふくふく　鄙ひとらや　小枝

年ゆくとこそ　蓮の柿の実　文草
畠のもとに　かくれの宿の涼　文成
端午たの　菖蒲ふて　去来
人のむらに　湯瓶まつり　文草
月ゆくこ　三度　蓮の柿の実　乙州

涼ませや　ぬ菓の文　東雲
葱の笛　ふく　蓮の実　文成
鮎ふりふく　蓮の月　涼ふく　沾圃

元禄七甲戌歳

東之中納言殿ハ星月夜　其角
葉、紅梅を　作むし　国紙　故我
まし雪葉道乃手ゆゆさ　岩翁
心をそ　ゆふ　の所　枳風
ゆ　を　て　彫棠
故　秋　ら　撲儿
月　ま　の　元禄
帆を八　合小　舟　の　仙化

姥小ゆ　の名　元禄
泥ゆ　ま　い　人　丈芝
ゆ　と　文　て　許六
雲峰　ハ　き　毛角
ま　ハ　ゆ　の石
出　代　ま　元禄

[illegible]

一句　[illegible]　[illegible]の[illegible]　李由

[illegible]も[illegible]　[illegible]　[illegible]

香[illegible]　[illegible]の[illegible]　[illegible]

いろ〳〵の[illegible]　[illegible]

[illegible]の[illegible]　[illegible]の[illegible]　[illegible]

[illegible]も[illegible]の[illegible]　[illegible]

枝枝に[illegible]の[illegible]の花　[illegible]

[illegible]の[illegible]　[illegible]

[illegible]の[illegible]の[illegible]　秋風

[illegible]　[illegible]の花　[illegible]

[illegible]の[illegible]の[illegible]新　[illegible]

[illegible]の[illegible]の[illegible]　山店

[illegible]の[illegible]　史邦

うちわ八杖つき坂を登るれ　宗長
角のとうぬ　牛もまきもの　古芽

ひよろ〳〵と行雲やゆきも　宗長
えんもやひとり　鶴の月

市人ふいくそしらんうの音　宗長
酒の戸たく　歌の　れ坂　柏月
朝うたをそしりもまく　梅国

梅の下　ものゝふ　やゆ　袋を　ぬ　宗長
杉　素　下　月　下　る　牛　二　る　一　秋風

さ世代　世ぐ　そ　る　る　よ　字　鼓　詩　よ　李下
月と　る　素　と　酒の　色　金　谷

伊勢　菊　て　芋　屋　と　白　と　和
高　素　き　む　ゆ　ば　秋の　れ　安秋
そ世代と　素　凡の　彼　差　良

花の色をうつす所の名を都 徐延
好きしたがふ 嵯の名所

師の所をむすび拾ひん本の名所 嵯山
すきさよしもの歌 に十一 有

紅葉に積りたる名の言 本因
みるめつれて風も絶ふ 大蔵

貞享の所々の契田の社に詠て

弟おの系所をうたふ

しのふ所 桂に開ふ金子 大蔵
志ひらふ 桂ふ大根 相系

るを所なるもの言れあり 大蔵
本のふよ岩を 吹かこと所 用水
ちらしと積りる言の名所多く 栗原
しのうたと伯母のを作 丈 相系

[illegible]

相意
[illegible]

[illegible]

[illegible]

左尺
[illegible]

杜宗陵
[illegible]人

支考
[illegible]江

[illegible]

栗苑
[illegible]

叩端
相意
[illegible]山

苑
[illegible]

宋水

なるけの市に上の袍うる　楫
夢うつゝ春はの雲戸を寄せて　蓋
よせて車のきしるなりうち　水

けぶりに茅蜩鳴む　等しくれ　文政
むくもるしきさ波のうち帳　相蓋
水ぐるしかすみすれのうつぶく　京花
まうちうち　塩乃いつゆるさや　叩鳴
神てもうけハうちうの自の　如行
言てハ家よ　工山

前幻住庵とむくを武うし
新たたるに　おうさまて

山仙や　白雲像のうつり　文政
炭のけうり　時のうてに　梅人
青の自雨を　ぬうに引おく　文秀
うくくと　初ろ　潮水
初ろ　猫ま　花ノうちおひ　弁三
新舞　判て　見ちくよう　梅母
旅の意　ぬうるうれて　与清
又　一ちり　流のうる言　賢亭

[illegible]

利方

[illegible]

我人

相模國阿波

[illegible]

執筆

[illegible]

相模

[illegible]

相模

[illegible]

附白の部

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

梅の風に　見のこしとゆく

寒さ梅に　任招ハ独　梯むよく　　名世

小僧かたりハ　加し事りみる

野路の　続きよなかれの　泥ぬく、

氣魚は　年紙をもてるしかの

宵月の　清れにも仍ゑて佗、

蔀と　切く　答て　舞なる

葉原つて　麻守入　藤の陰

佗釣しらく　椋の手売

更級の　まとの　旅を守りり、

人来の　沖には　何とかやん

籠ハ　子をときしるわつま、

はんとやさる　池の蓮の実

咲ふよつき　出す　桜のさむらく、

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

春山やあるしの心や山山や
る上と碎かくへられて　義成

蝶をのあるを見て勝元朝
臣の人と申さるなり　〃

清つくくもたなし　山寺
鶯の声小松と雪のあるとき　〃

たちとまりて市のあさけり
大和路へ入日はきつる雪ふる　〃

夏きの声ハ鳴る秋立
きのふきふ雲ハ山ゝの色わり　〃

をと海をたゝる夕れ
宋女百首玉の浦の初雪　〃

嘉政十一年
己未晩春
暮雨菴藏版

製本所
尾州名護屋本町壹丁目
風月孫助